Market Eye

銀行株の騰勢が引き続き相場を支えて、ＴＯＰＩＸは４日続伸

2010年1月7日(木)

第一生命経済研究所　経済調査部
副主任エコノミスト　人見 小奈恵
TEL 03-5221-4523
e-mail: hitomis@dlri.dai-ichi-life.co.jp

FOMC議事録で低金利政策の長期化が示唆されたことから、ドル安・資源高の動き

米国株式相場は、週末に米雇用統計を控えて、投資家の様子見姿勢が強いことから、終始小動きでした。商品市況高を受けて資源関連株が堅調に推移しましたが、ハイテク株等への利益確定売りや、昨年の業績不調が報じられた通信株の下落等により相殺されて、主要株価指数はほぼ変わらずで引けました。

FOMC議事録では、金融緩和策の拡大について議論されたことが明らかとなりました。為替市場では、超低金利政策が当面続くとの思惑から、ドルが対ユーロで下落しました。これを受けて資源価格は軒並み上昇し、エネルギーや素材関連株を押し上げました。原油先物価格は、週間ベースで原油在庫が予想外に増加したことから一時弱含む場面もありましたが、欧米での寒波に伴う需要増加期待が引き続き材料視されて10日続伸し、約1年3ヶ月ぶりの高値を更新しました。

12月のISM非製造業景況指数は50.1と、予想（50.5）は下回ったものの、前月（48.7）を上回り、サービス業活動の拡大と縮小の分かれ目である50を上回りました。ただし、内訳をみると、「雇用指数」が依然として伸び悩んでいるほか、「新規受注」も前月より低下するなど、製造業と比べてサービス業の回復力の弱さが映し出される結果となりました。

銀行株が引き続き株式相場を下支え

国内株式相場は小幅高で寄り付きました。昨日に引き続き、金融関連株や市況関連株中心に堅調でしたが、外需関連株が軟調だったことから上値は限られ、寄り付き後まもなくマイナスに転じました。ただし、9時半に発表された11月の豪小売売上高が前月比+1.4%と市場予想（+0.3%）を大きく上回る伸びを示したことから、豪ドルが急伸し、資源国通貨を選好する流れとなりました。これを受けて、円が主要通貨に対して弱含んだことから、電機の一角はプラスに転じ、金融関連株や資源関連株は一段と騰勢を強め、株価指数は上げ幅を広げる場面がありました。しかし、これを好感した買いは長くは続かず、株価指数先物の売りに押されて、日経平均株価は前日終値近辺まで押し下げられました。後場に入ると、小幅安の水準での推移がしばらく続いていましたが、14時以降、株価指数先物に断続的な売りが入ったことから株価指数は押し下げられて、結局、日経平均株価は10,700円を小幅に下回り、4日ぶりの反落となりました。ただし、銀行株の上昇が大きく寄与したTOPIXについては、わずかながら続伸して引けました。

米国市場と同様に、国内でもこれまで上昇を牽引してきた銘柄に利益確定売りが見られるなど、上昇一服感が漂っていることが、指数全体の上値を抑える一因となっているように思われます。しかし一方で、これまで物色の圏外に置かれていた銘柄には見直し買いが見られることから、株価指数全体は総じて底堅い展開となっています。明日は米雇用統計を直前に控えて、狭いレンジ内での推移にとどまることが予想されますが、円安基調も追い風となり、引き続き底堅い展開が続くのではないかと思われます。

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。